

譲原地すべりの対策工の効果について発表

譲原地すべり下久保地区の対策工と効果について

Countermeasure Effectiveness in the Shimokubo Area of the Yuzurihara Landslide

石田孝司*, 宮崎英樹, 須田真也, 風間宏 (国土交通省利根川水系砂防事務所)

前寺雅紀, 岸本海笛 (砂防・地すべり技術センター)

Koji ISHIDA *, Hideki MIYAZAKI, Shinya SUDA, Hiroshi KAZAMA (Tonegawa Sabo Office, MLIT)

Masanori MAEDERA, Miteki KISHIMOTO (Sabo & Landslide Technical Center)

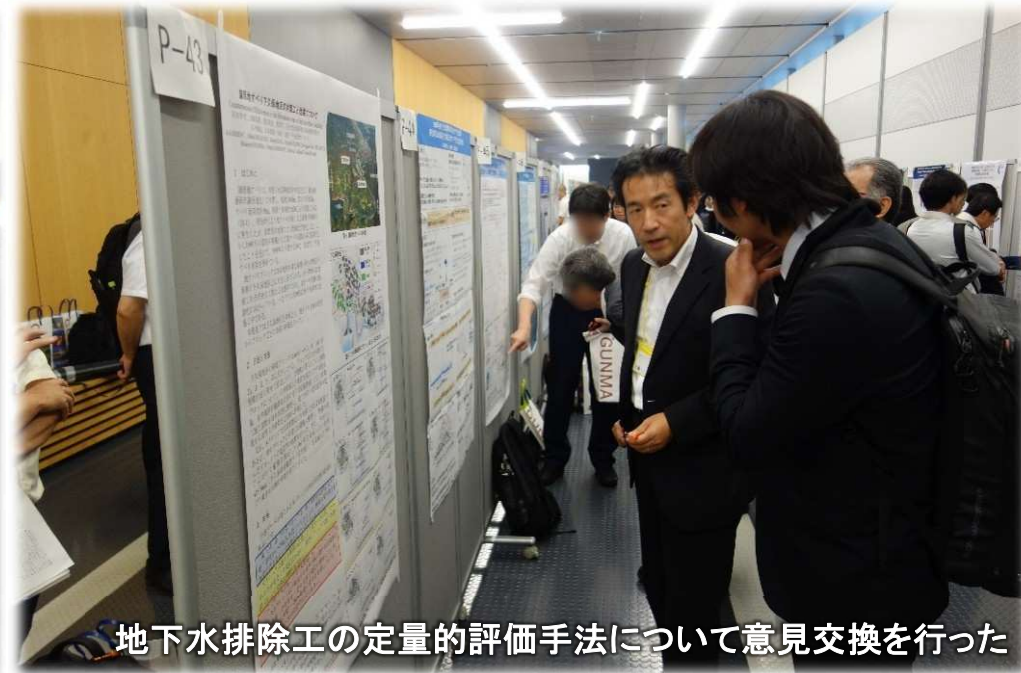
～意見交換時にお聞きした主な知見～

- 地下水排除工の効果の評価方法としては、基底水位の変化、地下水位のピークカット量、地下水位の上がり方などの面から評価することが一般的。
- 初期安全率に対する現在の安全率を適切に確認し評価することが大事。 など

- 令和8年9月15日から18日にかけて、高崎市を主会場として日本地すべり学会研究発表会が開催されました。
- 当事務所の職員は研究発表会の実行委員会と幹事会に参画し、大会運営への協力を行いました。
- 研究発表会では、当事務所で施工を進めている譲原地すべり下久保地区について、地下水位と変位速度の変化からみた地下水排除工の効果を整理してポスターセッションで発表しました。聴講者との意見交換を通じて、地下水排除工の定量的評価の考え方などについて知見を得ることができました。
- 発表を通じて得られた知見を活かし、事業展開の検討や事業の推進に努めてまいります。

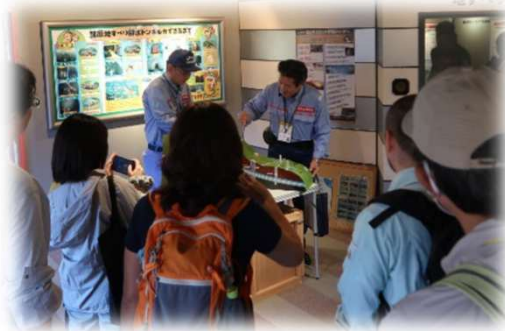


聴講者に研究内容を説明する発表者(事務所長)



地下水排除工の定量的評価手法について意見交換を行った

- 令和8年9月18日(金)、「譲原地すべり」地区を対象に、日本地すべり学会 現地見学会（Bコース）が、30名の参加者で開催されました。
- 午前中に、譲原防災センターにて「譲原地すべり」の概要説明と対策工（集水井）・観測機器を見学し、午後は、完成済みの譲原2号排水トンネルと工事中のアンカー工事を見学していただくとともに、平成3年に発生した地すべり災害時の擁壁工のズレの状況を見学していただきました。
- 地すべり災害の恐怖と対策の必要性などについて、理解を深めていただけたのではないかと思います。

譲原防災センター館内説明
(2階ボーリングコア)譲原防災センター館内説明
(2階ジオラマ模型)譲原防災センター館外説明
(見学用集水井)譲原防災センター館外説明
(観測機器)工事箇所説明
(アンカー工事)地すべり対策施設説明
(譲原2号排水トンネル)地すべり災害(H3)時の変状状況説明
(道路擁壁工のズレ)